

銀賞

浄化センターで知ったこと

金光 由依

水巻町立帆小学校

10月10日水曜日に、遠賀川下流浄化センターに行きました。それでわかった事をこの作文で表します。

わたしが、浄化センターに行く時、バスの中で、「どんな所かな。」

と、心の中で思いました。

着くと、最初に、テレビのような物がある部屋に行きました。そこでは、DVDや、しよくいんの方がじっさいに実験をやったり、わかりやすく学びました。

次に、水をきれいにする場所に行きました。ここでは、じっさいに、きれいにしている所をみながら、しよくいんの方がこの機械の役目などを、おしえてくれました。水が、ものすごいいきおいで流れている所は、少しこわかったです。でも、きたない水から、きれいな水での変化の様子がわかりました。水の大切さと、水をよこしたらいけないという思いが伝わりました。

次に、び生物がいるという機械の場所へ行きました。目に見えないほどのび生物でした。でしたが、び生物がよごれをたべた場所と、たべない場所では、ずいぶん色がちがうし、差があるなと思えました。下水道を研究している病院のような所では、水環境の事や、水をよこすとこんな事になるよ。という説明や、パソコンでび生物の様子や動きなどを見せてくれました。そこでは、パソコンをそうさしてい

る方が、こういいました。

「び生物は、とっても大切で、いないと水がよごれてしまうから大切なそんざいなんだ。」

と言われていました。び生物は、大切なそんざいで、下水道は、よごしてはいけなくて、大切に扱わなければならないものだとかかりました。遠賀川下流浄化センターのおかげで、遠賀川がきれいになるんだなとわかりました。

しつ問時間の時に、気になった事を発表したら、ものすごく大変そうな答えが返ってきました。それは、わたしが

「水質試験室で安全かどうかを調べた時、安全じゃなかったら、どうするのですか。」

と、しつ問したら、

「まず、はたらいっている人と相談して少しでもきれいにできるように研究します。」

と言っていました。その言葉だけで、大変さと、水を大切にしなければいけないこと、遠賀川を大切にしたいいきもちが伝わりました。

これから、家では、学んだことをいかして、せんとくきと、おふろの水を管を通して、水をつないだり、いろんな所で、節水したり、水を止めたりしようと思います。

最後に、わかったことは、下水道の大切さ、び生物は、大切なそんざいで遠賀川を大切にすることがわかりました。今回の見学でわかったことは、3しゆるいいじょうわかりました。それだけ、大切にしている思いがたまっているんだなと思えました。これからも、水を大切にしようと思いました。